



報 廣

市民の友

第643号 毎月1回発行
2004年(平成16年)

8月

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎867-0111 ●印刷 光文堂印刷(株)

市の人口と世帯	
※()内はうち外国人	
2004(平成16)年6月末現在	
総人口	311,910(1,936)
男	150,888(1,013)
女	161,022(923)
世帯数	124,357(1,156)
住民基本台帳人口の内訳(外国人を除く)	
本 庁	89,927
真和志	105,601
首 里	58,944
小 禄	55,502



触れ合う手
繋ぐ手
夢を描く

主な紙面

那覇市のペット事情
帰ってきた
「琉球王朝の秘宝展」
コミュニティ・パス実証実験
7月8日を
「なはの日」にしよう
情報PACK

7 6 5̣ 3 2

「でーじ、デカイ」「だー！」
夏休みの初日、お友達5人は汗だくになりながら、ゴルバチョフさんの手をかたどった銅版に、手を伸ばしていました。

「なほの日」の関連イベントのひとつとして、7月8日（木）に「触れ手・重ね手・あの人の手」の除幕式が行われ、那覇市にゆかりのある著名人の銅製の手形レリーフ（浮き彫り）が、沖縄通り商店街振興組合の協力により、通り沿いの街路灯に設置されました。

現在は、元ソ連大統領「ゴルバチョフさんのほか、「ちゅらさん」でおなじみの女優、国仲涼子さん、歌手のMAX（マックス）の4名計6枚が設置されています。

今後、沖縄通り商店街振興組合では、市の事業をひき継いで、多くの著名人の手形レリーフを設置していく予定です。

ところで、お友達5人組の将来の夢は、消防士や警察官、総理大臣のほか、わからん！と、ちよつと困った様子。

著名人の手形に手を重ねることで、那覇市民としての誇りと自信になって、いろんな夢を描いてほしいものですね。

市長談
2人
TAIDAN (16)



たいら のぶこ
平良 信子
元那覇市長故平良良松氏夫人

大正7年（1918年）泊生まれ
昭和10年（1935年）第一高等女学校卒
昭和15年（1940年）ペルーのリマにて
平良良松氏と結婚。現在、友人との模
合やデイケアに通うなど、生活を楽し
んでいる。

市長　ところで、平良良松先生が推進したモノレール事業ですが、ご存命でしたら第一号で乗っていただきたかったですね。

平良　道を歩いていて、モノレール

れて。主人が生きていたら、雄志さんの頭を撫でたことでしょうね。

モノレール事始め

人生」というのが好きな言葉でした。

市長 いいお言葉ですね。今日はありがとうございました。

これからもモノレールをみんなで育てたいですね。

平良　そうですね。「一度だけの

きるのか」と(笑)。

市長 良松先生らしいエピソードですね。ところで、壁に掲げられている「一度だ

きるのか」と（笑）。

回し読みをしたそうですね

と言われたみたいですよ。

市長 友人どうして金を出し合って、『文藝春秋』とか『中央公論』などを買って

すが、親戚の人が「ナマカラヤ学校
行カサントー、仕事ヤネーンドー」

平良 同じ古島で、一中も一緒で。同じ歳だったのでが貴方のお父さんが先に中学に行って、一年遅れてうちの主人も。家が貧しかったよう

市長 良松先生と私の父とは、それこそ幼い頃から友人だったのですよね

平良信子さん わざわざ家（自宅）までおいでいただいて。

させていただきました。奥様、お久しぶりです。お元気そうで。

ります。そこで、本日は、元那覇市長の平良良先生宅にお邪魔を

翁長雄志市長 今月十日は都市モノ

すのですよ。

市長 モノレール導入を決めた最初の頃ですから、なにかと苦
労もあつたのじゃないですか。

平良 あの頃は日帰りの出張も多かったですね。一度は山中貞則

ですが、そのたびごとに立ち止まって主人のことを思い出

が走っているのを見上げるの



本紙は「カラーバリアフリー(色覚障壁の除去)」につとめています。

お気づきの点がございましたらお寄せ下さい。
☎862-9942 秘書広報課

 再生紙を使用しています。